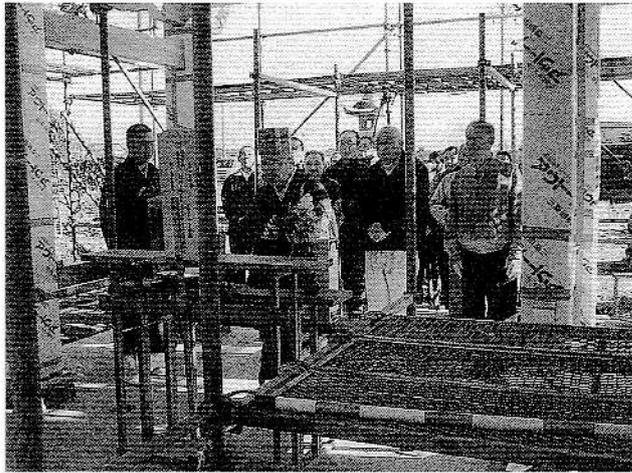


心ゆたかに

発行 株式会社天峰建設 袋井市横井 115-3
TEL0538-43-6773 FAX0538-43-7250
ホームページ <http://www.tenpou.co.jp/>
Eメール tenpou@mail.wbs.ne.jp

第93号 発行日 平成23年5月1日

曹洞宗大円寺様で山門新築 静岡県磐田市加茂



大円寺様の上棟式の様子 (平成23年3月)

去る三月十七日(木)、静岡県磐田市加茂の久松山大円寺様(鈴木泰史住職)において、山門新築のための地鎮式が執り行われました。続いて同月二十六日(土)、上棟式が執り行われました。

いずれの式典も天候に恵まれ、建設委員参列のもと、皆で工事の無事を祈念しました。

この現場の棟梁は若千二十二歳の鳥羽瀬玄考で、今までは先輩大工の下で修業に励んでいましたが、いよいよ責任のある棟梁を任されるに至りました。完成は八月末の予定です。

臨濟宗
方広寺派

長泉寺様で地鎮式

静岡県浜松市東区小池町

去る四月五日(火)、静岡県浜松市東区小池町の小池山長泉寺様(林隆道住職)で庫裡と書院の新築のための地鎮式が執り行われました。

式典当日は春らしい穏やかな気候で、和やかな雰囲気の中つつがなく式が進み、皆で焼香して今後の工事の無事を

祈りました。

庫裡はベテランの佐野棟梁、書院は若いながらも本堂の棟梁経験がある飯田将人が棟梁を務めます。

庫裡、書院ともに上棟式は五月十三日(金)を予定しており、九月下旬木工事の完了、十月末の完成を目指します。



長泉寺様の地鎮式の様子 (平成23年4月)

「お寺と在家者の間の

ギャップとは何か」

日本テンブルヴァン(株) 井上文夫

「お寺と在家者との距離感の背景とは」

世間の目からお寺や僧侶をみると、大雑把に言えば「生きていく人のために本当の布教活動をしていくのか」という不信と、お寺は葬儀や法事だけに軸足を置いており、「お寺の経済的な依存度が葬儀などや先祖供養などに偏ってしまっているのではないか」との思いがあり、それが葬儀やお布施が高額になっている一番の要因だと感じている人が多いことは否定できない。さらには葬式仏教でも結構だが、それならそれで、僧侶は真摯に遺族に寄り添った、悲しみを共有してくれる役割を果たして

くれているか、という印象を持たれている。そのようにお寺や僧侶に対する疑念を抱いている中で、突然葬儀を迎え、菩提寺がない人でも、一応世間体を重んずるばかりに、導師として葬儀社経由で紹介された初対面の僧侶がやってくる。葬儀が終わった後、お布施を受け取ったら法話もせず、さつと帰ってしまうことが多いと言われているようでは、いくらこれは布施行だ、仏教の世界の常識だ、と言っても理解はされるはずもなからう。

読者数では他の出版物と比較して圧倒的に多いとされる「通販生活」のアンケート調査によると、四十七%もの人々が十万円以下の戒名のお布施であれば、抵抗なく支払うことができる金額である、との回答であったという。

また過去発表されている各種調査データ

を見るまでもなく、一般の人々からお寺や僧侶に対して、葬式や先祖供養に対する期待やニーズには、従来から根強いものがあることも事実であり、これらのニーズは、時代が変わっても大きな変化が見られる訳ではない。

「在家者がお寺や僧侶に

期待しているもの」

各種世論調査データからみると、葬式や先祖供養に関して寺や僧侶の役割は自然に受け入れられている。しかし昨今の在家者のニーズが多様化してきており、寺や僧侶に対し、もっと別の新しい役割を期待しているが、現状では寺や僧侶が、必ずしもそれに十分に応えきれていない。つまり従来からの古い檀家制度に守られてきたお寺側

(次頁へ)

が描いている檀家像と、人々がお寺に期待していることとの間には、埋めがたいズレが生まれているようである。そのギャップへの反動が、寺や僧侶に対し批判的な意見となつて現れてきているのではないかと推測する向きもある。

ではそのギャップとは何か

「寺や僧侶が『社会参加』に背を向けている」あるいは「寺や僧侶は葬式や先祖供養だけが主な任務と考え、本来の役割を果たしていない」と思われていることが原因ではないか。

社会参加とは、本来の宗教活動だけにとどまらず、いろいろな形で、社会に役立つとする活動のことをいっている。現代の日本の仏教あるいはお寺の活動として、欠けているものとして挙げられることの多いのは「社会参加」ではないか、ともいわれ

ている。このことを武蔵野大学のケネス・タナカ教授は「日本の仏教は社会の外にあり、米国の仏教は社会の中にある」と著書【アメリカ仏教】の中で述べている。お寺は昔から社会の一員として、しかもコミュニティの中心となつて様々な活動を展開してきた歴史があり、今現在再びその原点回帰を人々は望んでいるのではないだろうか。

東日本大震災の影響

一刻も早い復興を願う

去る三月十一日(金)午後二時四十六分、東北地方をマグニチュード九・〇という巨大な地震が襲い、続く津波の被害や原子力発電所の放射能漏れなどによつて、東北地方にとどまらず関東を含む東日本一帯に未曾有の被害をもたらし、現在も死者行方不明者の数が日々変わっているほどです。亡くなられた方に哀悼の意をささげると

ともに、今も頑張っておられる被災地の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

弊社では震災前より花見のバーベキューを計画しておりましたが、各地の祭典が自粛される流れの中、「自粛自粛では本当の意味で復興の役には立たない、こういう時こそ前向きな姿勢が大切だ。」という社長の考えの下、四月九日(土)に「団結会」という名で敢えて行いました。そして、社員や協力業者の参加者から、参加費ではなく義捐金の募集という形でお金を集め、些少なから寄付をさせていただきました。

生産拠点が被害を受けたり、復興のために優先的に回されるなどの流通の面からの影響もあり、一時は物によつては全く建築資材の確保が出来ない様な状況もありましたが、徐々に改善されてきています。一刻も早い復興を願うばかりです。

知って得する

津波（つなみ）の話

三月十一日（金）午後二時四十六分十八秒に発生したマグニチュード九・〇の東北地方太平洋沖地震によって発生した巨大な津波が沿岸部を襲う映像は、地震当日からしばらくの間はテレビで繰り返し放送され、まだ恐怖の記憶も真新しいところと思います。地震当日帰宅してテレビのニュースを見るまでは津波の恐ろしさをわかっていなかったのだと痛感しました。今回は津波のお話です。

昨今ではインターネット上の無料で見られる動画サイトのYouTube（ユーチューブ）などでも多数の津波の映像を見ることができます。津波の映像を見ていて今までの想像と違ったのは、よくパニック映画などで描かれていた、何十mの高さの、頂上が泡立っているところもなく巨大な波が、轟音とともに押し寄せて甚大な被害をもたらすのではなく、数m程度の高さしかない

波がほとんど泡立つこともなく、巨大なうねりのまま静かに迫ってくる様でした。もちろん砂浜や陸地に乗りあがった部分は泡立ってしまいますが、海底の土砂なども巻き込んでいるため非常に黒っぽい液体のかたまりが迫る様はかえって不気味なものでした。

津波の特徴は、その圧倒的な波長（波の山をはさんだ谷から谷までの長さ）の長さがあり、風などが作り出す普通の波の波長が大きなものでも百五十m程度なのに対して、

百kmを超えることもあります。そのため高さが数十cmから数m程度だったとしても、通常の海面よりも盛り上がりつつある部分の水量がとてつもなく大きくなります。また、津波の速度は海が深いほど速く（水深四kmで時速七百二十km）、浅くなるほど遅くなり（波高六mの時水深十mで時速四十六km）ます。水深が浅くなるに従って遅くなる分波長

が短くなり、波高が大きくなります。湾のようなところに寄せてきた場合は、水路幅が小さくなるほど波高が大きくなります。従って、静岡県の場合には伊豆半島の複雑な海岸線に面した地域、駿河湾奥部や浜名湖沿岸などが津波の波高が大きくなりやすく、遠州灘沿岸部でも防潮堰のない河川沿いの地域は津波が河川を遡上する可能性があるため、防波堤や堤防があっても安心とは言いきれません。

津波警報が出た場合にはその予想される波高に高をくくらず、とにかく高台に避難することが大切です。時速四十km、深さ五十cm程度の水流の中でさえ、大の大人が立っていられないのです。同じ高さでも、津波の場合は波というよりも巨大な水でできた丘がそのまま迫ってくるような感じで、その圧倒的な水量のために、破壊力は台風などで発生する高潮の比ではありません。